# 全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成6年9月1日発行(通巻第138号)

## 特集 移動博物館について

NHK放送博物館 副館長 佐藤 俊雄

#### 1. はじめに

NHK放送博物館は世界で最初の"放送専門のミュージ アム"として昭和31年に開館し、まもなく40年を経ようと している。この種の専門館は現在でも、世界で数館しかな いユニークな存在である。

当博物館は科学系博物館と歴史系博物館の二足のわらじを履いている。

科学系でいえば、放送の送信機やアンテナなどの送信面 と、ラジオやテレビ等の受信機面での数々の機器類、それ に録音機・カメラといった取材用機材などの収集・展示が なされている。

歴史系では、70年の放送の歴史を物語る数々の映像や音 声、それに文献資料や台本などが備わっている。



NHK放送博物館常設展示場

#### 2. 移動博とは

当館には常設展や企画展の他に「移動放送博物館」という名称の展示がある。これは東京・愛宕山の当館に展示あるいは所蔵してある資料を外部に展開し、遠隔地で直接博物館へ来られない多くの方々にもご覧いただきたいという趣旨でスタートしたものである。

ただ、いつも同じ資料を各地に持ちまわるのではなく、 展示会のねらい・対象、会場の規模、経費等でさまざまな 構成をとっている。

資料を個別に他所へ貸し出したのは、昭和33年4月、広島復興博覧会へビジコンカメラの実験装置を出品したのが始まりだった。現在でもいろいろな資料が、他の博物館へ展示用として提供されたり、歴史を語る重要な小道具として番組の中でたびたび活用されている。

ただ、所有する資料をまとめて一括外部に公開する「移動放送博物館」(以下、移動博という)は昭和38年からはじまった。

昭和38年から昨年度までの30年間で、実に120回の移動博が行われている。この間の移動範囲は、北は旭川市・帯広市から南は那覇市まで。日本列島の主な都市をほとんど回ったことになる。そしてその間の入場者数の合計は517万人を超えた。同じ30年間の当館の入場者数は256万人だったので、移動博は2倍以上の集客力を誇っていることになる。これは一回の開催期間が平均5日位ということを考慮すれば、大変大きな数字といってよい。

会場は、これまでは各地のデパートの催事場を使うことが圧倒的に多かったが、平成4年あたりから地元の放送局のロビーを中心としてスタジオ等を使用することが多くなってきた。これにはロビーをリニューアルして、市民に催事場として開放する放送局が多くなり、そこを移動博の会場とすることが便利になったこともある。もちろんこの昨

Vol. 24, No. 5

今の不景気の影響で、デパートを会場とすることが困難に なったこともあるのだが。

NHKには全国各地に放送局があり、移動博の開催について地元局との共催がやり易いという利点がある。各地の放送局も地元住民へのサービスの強化という面から積極的な協力を惜しまない。

#### 3. 移動博の歴史

初年度である昭和38年は熊本(NHK新館落成記念)・長崎(NHK開局30周年記念)・大阪(NHK新館落成記念)で行った。この頃の展示物は、記録によればマイクロホン・ラジオ・テレビ・録音機・電子管・カメラなどの放送機器28点を中心に構成し、この他テレビの歩みを示す図版20枚、文献・写真資料の図版9枚となっている。

昭和40年代になると、上記の資料に加えて、車窓風景の スクリーンプロセス・天気予報のポラシーン・効果音用具 や雪降り装置などの番組制作に直結した装置の実験や解説 が追加され、入場者の興味を大いにひいた。

これによって、移動博の出品物も①放送の歴史、②放送の原理・仕組み、③番組制作の実情、④放送事業の現況を知ってもらうというNHK放送博物館の基本命題にそった形で構成されていることが分かる。

さらには、昭和39年にはメーカーの協賛を得て、その頃はまだ珍しかったカラーテレビの受像公開を、昭和57年には当時のニューメディアだった「文字放送」「緊急警報放送」装置がNHK技術研究所の協力のもとに展示されている。

ただ古いいわゆる博物館的なものだけを陳列するのではなく、その時代時代の最新の機材を紹介するのも、放送の未来という観点をも重視する移動博としては、重要な役割と認識している。

#### 4. なにを展示するか

展示物は、それがたとえどんなに貴重な文化財であったとしても、ただ展示ケースの中に鎮座しているだけではなかなか興味を持ってもらえない。やはり手を触れられるもの、動かせるもの、映像や音の出るものに人気が集まる。

そこで移動博での展示品には、貴重な"本物"といえど も数々の工夫を施し、興味をひく装置を準備している。

たとえば、

・昭和4年製作のラジオ「シンガー並4球受信機」には

昭和4年放送の「ラジオ体操」

- ・昭和10年製作のラジオ「3球ラジオ」には昭和11年放送の「兵に告ぐ」(2・26事件)
- ・昭和13年製作のラジオ「放送局型1号受信機」には昭和16年放送の「大東亜戦争の開戦ニュース」

が、ボタンを押すと録音テープが流れる仕掛けになっている。

そのほか、レーザーディスクを使用した再生装置が2基用意されている。二つのディスクとも、それぞれに19項目が収められていて、1項目の内容時間は3分間。来館者はその中から自由に項目を選択し、視聴できるランダムアクセスになっている。

ディスクの内容はというと、一つは「無線電話からハイビジョンへ」と題したもので、さまざまな放送技術史を紹介している。項目は「電波の発見」に始まり「録音むかしと今」「競技を追うリモコンカメラ」「コンピューターグラフィックス」などがあり、「ハイビジョン」の紹介も含まれる。もう一方の題は「放送のあゆみ」。文字どおり放送の歴史で、「スポーツ放送ことはじめ」「前畑ガンバレ」「私の秘密」など懐かしい番組に会える内容になっている。

#### 5. 催し物の内容と名称

かつての移動博は放送博物館の出品物だけで構成されていたが、最近はNHKのさまざまな部局や関連団体とジョイントするケースが増えてきて、その結果、各所からさまざまな出し物を出展することが多くなってきた。

具体的には、

- ・放送の最先端技術である「立体ハイビジョン」
- ・さまざまな背景をクロマキーで合成して写真にする「ビデオプリンター」
- ・自在に仮想空間を操作できる「バーチャル・リアリティ」
- ・「ファミコンゲーム」
- スタジオを公開しての「ライブ」
- ・人形劇の「人形公開」
- ・ドラマの「セットや衣装」
- ・タレントを招いての「サイン会」
- ・歴代の大河ドラマや連続テレビ小説の「パネル展」
- ・ユニフォームやフラッグ、試合のビデオを並べた「 $\mathbf{J}$ リーグコーナー」

#### ・「衛星受信相談」

などを加えたバラエティー溢れる催し物へと変化してきて いる。

これは"親子で楽しめる"という家族色の強いものに変 化する流れが強くなってきていると同時に、単に"放送の 歴史"にとどまらず、未来をも含めて、放送の各方面を多 角的に紹介する傾向になったといえよう。

それに伴って、名称もかつては「NHK放送博物館展」 とか「NHK放送のあゆみ展」という歴史を前面に出した ものが一般的だったが、最近は「ファミリーフェスティバ ル」や「放送文化ウィーク」といった包括的テーマを表現 するものに変化してきている。

#### 6. 移動博の具体例

ここ近年の移動博の内容を二つ紹介してみよう。 (その1)

名 称 夏休みわくわくテレビNHK展 (京都放送局開局60周年記念)

期間 平成4年8月8日出~12日休

京都近鉄百貨店 7階特設場 場所

- 展示内容 1) 放送の歴史コーナー
  - ・ラジオ・テレビ・カメラ・マイクなどの 歷史的機器類
  - ・レーザーディスクを使った放送の歴史案 内
  - ・写真とイラストでつづる放送の歩みのパ ネル
  - 2) 思い出の人形コーナー
    - ・ひょっこりひょうたん島など、番組に登 場した懐かしの人形たち
  - 3)映像体験コーナー
    - ・クロマキーによる映像の合成
  - 4)番組パネル展コーナー
    - ・連続テレビ小説「女は度胸」のパネル展
  - 5) 手作り教室コーナー
    - ・とび出す絵本・砂絵など
  - 6) オリジナルグッズ販売コーナー
    - ・にこにこぷんグッズ・とび出す絵本など
  - 7) イベント広場
    - ・にこにこぷんショー

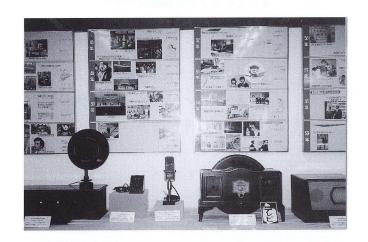
- ・FM「夕べのひととき」公開録音
- ・「女は度胸」俳優サイン会
- 記念講演会
- ・ファミコンゲーム大会

概況 京都放送局の開局60周年を記念して、市内 のデパートを会場に大規模に開催された。

> このデパートの建っている場所は、昭和3 年に大阪放送局京都演奏所が設けられたとこ ろで、いわば京都放送局の発祥の地という因 縁もあった。

> おりしも夏休みとあって、会場の中のイベ ント広場では、小さな子供に大人気の"にこ にこぷんショー"や、放送中の"「女は度胸」 のサイン会"などの日替わりイベントが次々 と行われ、開店前からデパートの入口に親子 連れの行列ができるほどの大盛況だった。

放送の歴史コーナーには、往時をしのぶ老 人や大人が熱心に見入る姿も見られた。





京都・近鉄百貨店での移動博

(その2)

名 称 鳥取放送局リニューアルオープン

期 間 平成5年11月25日(木)~28日(日)

場 所 NHK鳥取放送局

展示内容 1) 放送機材の歴史展

- ・大正14年放送開始時のマイク・スピーカ
- ・放送開始時・戦前・戦後・現代と時代別 のラジオ4台による聞きくらべ
- ・「太平洋戦争開戦ニュース」や「君の名は」 を当時のラジオで聞く
- ・レーザーディスクを使った放送の歴史案 内
- ・効果音用具
- 2) 立体ハイビジョンシアター
  - ・眼鏡で見る120インチ立体ハイビジョン
- 3) バーチャルリアリティ・システム公開
  - ・メディアの無限の可能性を体験
- 4) ミニスタジオ体験コーナー
  - キャスター席に座り、ビデオプリンター で撮影
- 5) パネルとミニセット展
  - ・大河ドラマ「炎立つ」の鎧・槍・弓矢
  - ドラマの紹介パネル
- 6) こどもランド
  - ・ジャンボすごろく
  - ・にこにこぷんテレビゲーム
- 7) ふるさと鳥取のうたを歌う会
  - ・郷土の名曲をアマチュア200人が歌う
- 8) FMライブ
  - ・プロ・アマのミュージシャンの演奏をライブ・録音で放送
- 9) 光と音のシンフォニー
  - ・レーザー光線や仕掛け花火、ライト・ス モークで光と音のファンタジーを繰り広 げる
- 概 況 鳥取放送局がリニューアルしたのを機に、 市民にお披露目を兼ねて行ったイベントであ る。

放送局をぶらり立ち寄れる喫茶店感覚、ギ

ャラリー感覚な身近なものに感じてもらおうとオープン化を図ったもので、催し物は局前の川での県内初のレーザー光線ショウや仕掛け花火で始まった。

なかでの呼び物は立体ハイビジョンとバー チャルリアリティ・システムだった。

ラジオスタジオを改修して、イベント後は常設のハイビジョンシアターに生まれ変わるスペースに、この期間だけ特別に立体ハイビジョンを持ち込んだ。水族館で群舞する魚たちがすぐ目の前まで泳いでくるさまに、映像とわかっていても思わず身を避けたり、手を伸ばして摑もうとする仕種の人もいたりして笑いを誘った。

バーチャルリアリティ・システムはテレビ ゲームに慣れているチビッ子たちも勝手が違ったようで、初めはこわごわ覗いていたが、 特有の奇妙な感覚の虜になると、もうその場 を離れない子供達が多かった。





鳥取放送局での移動博

## 過去5年間の移動博一覧

開催期間	名称	会場	入場者数
平成元年 7・20~ 7・25	NHK放送ワンダーランド	横浜・高島屋	67,100
8 · 2~ 8 · 8	福井局テレビ放送30周年記念展	福井・だるまや西武	36,900
8 · 10~ 8 · 15	浜松局テレビ放送30周年記念展	浜松・松菱	33,800
8 · 23~ 8 · 28	佐賀局テレビ放送30周年記念展	佐賀・玉屋	20,000
10 · 26~10 · 31	松江局テレビ放送30周年記念展	松江・一畑	11,000
平成2年 6 · 7 ~ 6 · 10	放送ニューメディアフェア	新潟・伊勢丹	4,100
$7 \cdot 21 \sim 7 \cdot 31$	テレビの未来ハイビジョン展	広島市こども文化科学館	26,300
$10 \cdot 10 \sim 10 \cdot 14$	豊橋局50周年記念展	豊橋・西武	8,500
$10 \cdot 26 \sim 11 \cdot 11$	寒川町町制50周年記念展	寒川町町民センター	2,000
平成3年 1・3~1・9	岡山局60周年記念展	岡山・天満屋	40,000
3 · 2 ~ 3 · 4	NHK展	横浜放送局	1,600
5 · 2~ 5 · 6	新潟局60周年ふれあい広場	新潟・三越	16,000
$5 \cdot 29 \sim 5 \cdot 31$	北海道ニューメディア展	札幌・そごう	11,500
6 · 7~ 6 · 9	放送ニューメディアフェア	長野市ステーションビル	5,200
6 · 12~ 6 · 16	福島局50周年ファミリー放送博	福島市ダックシティ	8,200
6 · 20~ 6 · 24	いわき局50周年ファミリー放送博	いわき・大黒屋	5,500
$6 \cdot 27 \sim 7 \cdot 2$	郡山局50周年ファミリー放送博	郡山・西武	5,300
8 · 8 ~ 8 · 21	TV生みの親・高柳健次郎展	浜松・松菱	12,000
8 · 16~ 8 · 21	和歌山TV20周年展	和歌山・近鉄	26,000
8 · 22~ 8 · 27	名古屋放送センター落成記念展	名古屋・松坂屋	102,400
平成4年 5・8~5・10	放送文化フェアー in 浜松	浜松放送局	3,000
5 · 23 ~ 6 · 1	目でみる放送のしくみ展	日立市シビックセンター	3,500
8 · 8 ~ 8 · 12	夏休みわくわくテレビNHK展	京都・近鉄	115,000
$10 \cdot 10 \sim 10 \cdot 11$	パラボラ広場	長野放送局	19,000
11 · 1~11 · 3	甚目寺町民ふれあい広場	愛知県甚目寺町公民館	19,200
11 · 1~11 · 4	NHK生涯学習フェア in 仙台	仙台市青少年センター	4,000
平成5年 3・26~ 3・31	わくわくOSAKA	大阪・近鉄阿倍野	46,700
6 · 16~ 6 · 20	徳島局開局60周年NHK展	徳島・そごう	13,600
10 · 3~10 · 11	前橋局開局60周年NHK展	前橋・西武	3,500
10 · 16~10 · 17	長野局会館公開	長野放送局	18,100
$10 \cdot 16 \sim 10 \cdot 17$	豊橋局会館公開	豊橋放送局	13,000
11 · 25~11 · 28	鳥取局リニューアルオープン	鳥取放送局	4,300
$12 \cdot 11 \sim 12 \cdot 12$	NHKこどもランド	スパ・リゾート・ハワイアンズ	7,500

#### 7. おわりに

これまで「移動博」という言葉を使用してきたが、いままで記したイベントを見る限り、それは博物館という名が持つ概念をはみだしているかに見える。

これまでの博物館の教育普及活動は常設展示を補完する活動という程度にしか考えられていなかった。だが、昭和63年に生涯学習の考え方が導入されてからは、博物館に対して多種多様な活動が期待されてきている。そのためにも、移動博は"活動する博物館"としての意識と多面的な行動を前面に打ち出していかなければならないと考える。

たしかに博物館単独でこのようなすべての催し物をプロ モートすることは不可能である。各地域の要請に応え、展 示を企画し実施してゆくことは、もとより多額の資金を必 要とし、労力も費やす。

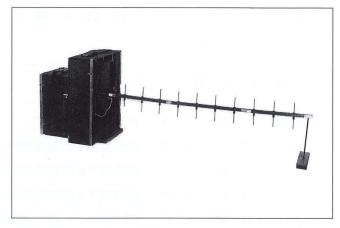
だからこそ、放送博物館はNHKやNHK関連団体とタイアップし、地元の公共団体から後援や協賛をとりつけ、アイデアや展示品を提供しあい、資金や労力を分担しあう方策を考えだした。

移動博の客層は幼児から高齢者に至るまで多様化しており、放送に対する関心もさまざまである。すべての人々の関心を引きつけることは不可能にしても、より多くの入場者にさまざまな満足を与えるためにはこのようなジョイント方式は有効な方法といえよう。そうすることで集客力を増し、結果として放送博物館の存在を全国的にPRすることになる。

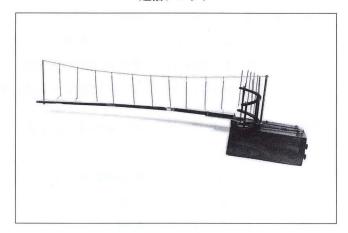
催し物の内容は非常にバラェティに富んではいるが、要は"放送文化"というものをしっかり基本に据えてさえおけば、NHKを理解してもらう行為として大変意義あるものと思っている。



にぎわう移動博(豊橋放送局)



送信アンテナ



受信アンテナ

#### 博物館 この一点 「八木・宇田式極超短波無線電話装置」

大正15年に東北帝国大学 (現在の東北大学) の八木秀次・ 宇田新太郎の両博士が極超短波 (UHF) を使用した無線 電話装置の原理を発明した。

NHK放送博物館に展示してあるこの装置は、昭和5年にベルギーのブリュッセルで行われた万国博覧会に出品されたものである。当時はこのような短い波長の電波(波長は45センチ、周波数は667メガヘルツ)は、まだ通信に利用されていなかったので、世界の注目を集めた。

その後、この方式は第二次世界大戦の時に連合軍側のレーダーのアンテナとして利用され、日本でも戦後に研究が 進められてテレビのアンテナとして広く利用されている。

この装置は昭和60年の"つくば万国博"に、日本の三大発明品の一つとして、「高柳式テレビ」「豊田自動織機」とともに展示された。

#### 新規加盟館の紹介 —

## ミュージアムパーク茨城県自然博物館

〒306-06 茨城県岩井市大崎700 TEL.0297-38-2000 FAX.0297-38-1999

当館は、県内最大の自然環境保全地域で小白鳥など冬鳥の飛来地として有名な菅生沼のほとりに立地し、本年11月13日(日)「茨城県民の日」にオープンします。

当館の最大の特徴は、関東の原風景といわれる「谷津田」や「雑木林」などの生きた展示となる「広い自然(フィールド)」と「本館の展示」が一体的に整備されていることです。単に、自然や、自然との関わりについて展示物だけで学習するのではなく本館で学んだことを、野外での自然とのふれあいを通じて、人と自然の共生の大切さを学ぶことができます。

本館2階のエントランスロビーでは、高さ5.3mの松花江マンモス、1階から2階ロビーにかけては、中生代に地球を闊歩していた全長26mの恐竜ヌオエロサウルスが来館者をお迎えします。展示室は、宇宙というマクロの世界から、生命のしくみというミクロの世界までを、およそ46億年という地球の歴史と、自然のしくみ、さらに現在のさまざまな地球環境問題をストーリー性を持たせながら、恐竜化石などの実物やジオラマ、映像、各種体験・観察装置等により、楽しく分かりやすい構成となっています。

また、茨城の豊かな自然と特色を紹介する部門展示としてディスカバリープレイスがあります。ディスカバリープレイスでは、茨城の大地の生い立ちを物語る岩石や化石、豊かな大地に生きる多くの動物・植物について展示するとともに、各種の自然情報機器や実験・実習機器を備えることにより、茨城の自然の発見・学習の場としての機能の充実を図っています。

企画展示室は、面積1,000平方メートルで、可動式間仕切



りにより3分割して使用することができます。小規模の催 事でも使用可能であり、今後、多くの人たちに親しまれる 幅広い内容の展示やイベントを開催します。

野外施設は、約16.4~クタールという広い敷地全体を野外展示(生きた展示)として位置づけ、自然教育・環境教育の拠点とすることを基本に整備しています。既存の雑木林を利用した小動物、昆虫、植物を自然の状態で観察できる自然観察林を散策する「ネイチャートレイル(自然観察路)」を4コース(草木、鳥、昆虫、岩石)設定し、来館者が好きなコースを選び気軽に自然とふれあえるように工夫しており、また、子どもたちが身近な自然現象を遊びながら体験できる大型の自然発見童具などもあります。さらに、屋外活動の拠点として、各種の実験・実習や催事に使用する自然発見工房も整備されています。

なお、博物館施設としては、全国でも例がない「自然観察遊歩道橋」(延長338m・幅員3m)は、菅生沼に生息する野鳥や水生植物等の観察施設として利用するとともに、菅生沼の対岸の宿泊研修施設「あすなろの里」とを結び、両施設の利用促進を図るものです。

当館は、「地球の自然」を豊富な資料を通して学び、野外施設では様々な自然体験を通して豊かな感性を養う、いわゆる21世紀型自然博物館です。

ミュージアムパークと名付けられましたように、従来の博物館のイメージを一新し、誰もが親しめ、誰もが楽しめる、おしゃれ感覚を盛り込んだアミュージアム (アミューズメント+ミュージアム) をめざしています。

- ·開館時間 9:30~17:00
- ・休 館 日 月曜日 年末年始(½,~½)
- ・入館料

区 分	本館·野 外施設	野外施設のみ
小・中学生	100円	50円
高校・大学生	300円	100円
大 人	500円	200円



## 久慈琥珀博物館

〒028 岩手県久慈市小久慈町19-156-133 TEL.0194-59-3821 FAX.0194-59-3515

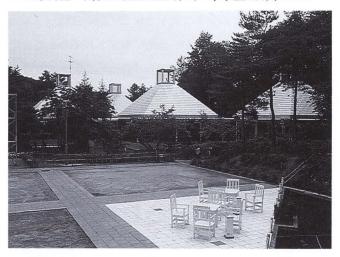
久慈琥珀博物館は、琥珀専門の博物館としては国内唯一のもので、三陸海岸に臨み、日本最大の琥珀産出地である 久慈市に昭和59年4月に、当初は琥珀資料館として開設されました。

久慈地方は琥珀採掘の歴史も古く、市内の縄文時代の遺跡から琥珀製品などが出土し、古代の琥珀工房跡も見つかっています。また、江戸時代以後、約380年余りの採掘の産業史が残る国内で唯一の産地としても知られています。

展示は、「太古からのメッセージ」「人と琥珀」の2大テーマから成り、琥珀の成因から歴史についてを久慈地方および世界の視点から多数の資料で展示解説し、見学コースには大正時代の琥珀採掘坑道跡も整備されています。なかでも、昨年以来、話題の「虫入り琥珀」コーナーは親子連れや観光客の人気を集めています。

また、年5回の企画展のほか、近県の市町村へ巡回する 移動博物館展も随時企画し、よく知られていない琥珀の普 及を通じて、地域発展の中核となる文化施設をめざしています。

- ·開館時間 9:00~16:30 (閉館17:00)
- ·休館日 12/29~1/3、2/25~2月末日
- ・入館料金 高校生以上250円、小・中学生100円



## 大鹿村中央構造線博物館

〒399-35 長野県下伊那郡大鹿村大河原988 TEL.0265-39-2205

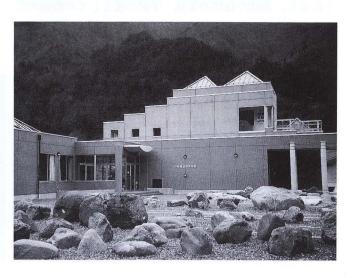
日本で最大の断層である中央構造線が大鹿村の南北を貫き、村の地名を冠した岩石「鹿塩マイロナイト」や断層を観察できる露頭が村内に数箇所あるなど、村全体が「地質の教室」「博物館」といったここ大鹿村に当博物館は、その中央構造線とこれがもたらした自然環境について学ぶ拠点として、平成5年7月にオープンしました。

1階展示室は、中央構造線をテーマに、実物の断層をはぎ取って展示した中央構造線露頭はぎ取り標本(2.5×3.5 m)のほか、大鹿村の地形・地質立体模型、領家帯から四万十帯に至るさまざまな岩石標本200種類の展示など、地質、岩石の分布状況、中央構造線の成り立ちが理解できます。

また、2階展示室では、地すべり模型やパネル・パソコンによる土砂災害の解説、昭和36年の災害の記録、など災害と防災事業について、一方、外庭に設けられた、大鹿村を代表する岩石150点で作られた岩石園では、それぞれ特徴を持った岩石が採集地と同じ方向に配置され、岩石に直か

に触れながら学ぶことができます。

- · 開館時間 9:30~16:30
- ·休 館 日 月、火、金曜日、年末年始 (12/28~1/4)
- ・入館料 無料 (平成6年10月から有料予定)



(ハイフォン・安井亮)

#### <新設館>

#### インパルス国立科学館(オランダ・アムステルダム)

1923年に設立されたアムステルダム国立技術博物館 (NINT Technologie Museum)が、このほどオランダの産業界の大きな財政的援助を受けて、大々的に全面改装され、館名もインパルス国立科学センター(IMPULS-Dutch Science Center)になる。新しい施設は、ポンピドゥー・センターの設計で有名なレンゾ・ピアノが手がける。総延床面積36,000m²の新しい施設は、年間80万人の入館者が計画されている。総工費40,000,000ドルのうち10,000,000ドルがオランダ政府とアムステルダム市から出資されることになっている。

#### <施設の拡張計画>

#### 英マンチェスター科学産業博物館

マンチェスター市カースルフィールド地区に残る世界最古の鉄道倉庫(1830)がこのほどマンチェスター科学産業博物館の展示施設として再利用されることになった。改装工事は1993年の暮れから始まり、1995年の1月には公開される予定だ。そもそも10年ほど前まではこの歴史的な建造物は現役として使われていたが、カースルフィールド地区で進められていた大々的な再開発計画の一環で取り壊しが検討されていた。それが英国内でこの歴史的に価値が高い煉瓦倉庫の保存運動が高まり、それに押されてマンチェスター市はマンチェスター科学産業博物館の展示施設として使うことに決定した。

#### <ユニークな展示>

#### 米カリフォニア科学産業博物館で、都市環境に関する常 設展がスタート

ロサンゼルスのカリフォニア科学産業博物館で1992年にスタートした都市環境展 Our Urban Environment の第二期の常設展示が1994年4月にスタートした。第一期では、生活用水の水質、家庭からの廃棄物の再利用と家庭のエネルギー利用を取り上げているが、新たに公開された第二期では、大気汚染、環境にやさしい交通燃料と、快適な都市空間を個別に取り上げている。

#### 米ニューヨーク自然史博物館で、絶滅した脊椎動物の常 設展示ホールがスタート

ニューヨーク自然史博物館の開館250周年記念事業のひと つとして、絶滅した哺乳類に関する展示ホールがスタート した。展示されている脊椎動物は、従来の年代順の展示で はなく、巨大な進化の系統樹の展示レイアウトの上に構成 されている。

#### <1993年の年間入館者数(50万人以上)>

米スミソニアン国立航空宇宙博物館(8,656,087)、米ニ ューヨーク自然史博物館(2,737,750)、中華民国・台中国 立自然科学博物館(2,500,000)、米ヒューストン自然科学 博物館(2,300,000)、米シカゴ科学産業博物館 (2,000,000)、米デンバー自然史博物館(1,858,249)、米 セントルイス科学センター (1,724,394)、米ボストン科学 博物館(1,623,000)、米カルフォニア科学アカデミー (1,400,000)、米リバティー科学館(1,300,000)、英ロン ドン国立科学博物館(1,300,000)、米シアトル太平洋科学 館(1,200,000)、韓国・ダジョン国立科学博物館 (1,149,024)、米フォートワース科学博物館(1,116,400)、 米オレゴン科学産業博物館(1,100,000)、米ヘンリーフォ ード産業博物館・グリーンフィールド歴史村(1,054,054)、 米フランクリン科学博物館(1,000,203)、米バージニア自 然史博物館 (931,925)、シンガポール科学センター (910.265)、米ファーンバンク科学館(840.000)、米ミネソ タ科学博物館(774,000)、米オハイオ科学産業センター (719,693)、米ダラス・サイエンス・プレース (703,000)、 米シャーロット・ディスカバリー・プレース (637,722)、 米エクスプロラトリウム (629,000)、メキシコシティー国 立技術博物館(620,000)、加バンクーバー・サイエンス・ ワールド (600,000)、米カンバーランド科学博物館 (552,537)、英グリーニッヂ国立海事博物館(550,000)、米 メリーランド科学館 (516,784)。情報源: The 1994 ASTC/CIMUSET Directory.

\*ハイフォン Tel: 03-3496-8212 Fax: 03-3496-2146 Niftyserve: GGH00311

### マルチメディアの発展に対応した 文教施策の推進について

マルチメディアの発展に向けた最近の動きとしては、国内では、郵政省電気通信審議会の「21世紀の知的社会への改革に向けて一情報通信基盤整備プログラムー」答申(平成6年5月31日)や、通産省の「高度情報化プログラム」発表(平成6年5月19日)などがあります。

また、アメリカでは、全米情報基盤 (NII) の構築に向けて取組みが進められ、2000年までに情報通信基盤により学校・図書館等を結ぶ教育の高度化を打ち出しています。

こうした「マルチメディア時代」に向けた取組みは、我 が国では主に関連産業の育成や情報通信基盤の整備等の面 から官民を越えた各種の取組みが進められているのを始め、 国際的な規模で重要課題とされています。

このような情勢の中で、平成6年6月、文部省は、今後 マルチメディアの発展に対応した文教施策全般について検 討し、総合的な施策を企画・推進していくという方針を明 らかにしました。以下にその内容を御紹介します。 文部省は、今後のマルチメディア機器・ソフトの開発・ 普及及び光ファイバー等による高度情報ネットワークの整 備を見通しながら、文教分野におけるマルチメディアの適 切、効果的な活用の在り方を検討し、その推進のための総 合的な施策を企画していくこととしています。

検討・取組の課題としては以下の内容を挙げています。

- 1 マルチメディアの発展に対応した教育、学術、文化、 スポーツの在り方等についての理念及び内容・方法の 確立
- 2 マルチメディアの基盤整備
- 3 マルチメディア・ソフトの研究・開発・利用の支援
- 4 専門的な人材の養成 など

その一環として、現在次のような取組みを進めています。 (1)「マルチメディアの発展に対応した文教施策の推進に 関する懇談会」の設置(平成6年6月)

構成:関係各界の有識者等 21名

座長:猪瀬 博(学術情報センター所長)

本年秋頃には、基本的な点についての提言をまと める予定

### NATURE & SCIENCE



COLORATA

ーミュージアムグッズの企画及びデザインー

カロラータ株/〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F TEL:03-3865-8110 FAX:03-3864-4049

> 東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル TFL (03) 3221-1102代) FAX (03) 3221-1185

> > 動物園/水族館/博物館

#### 恐竜マグ



あたたかい飲みものを入れると 骨格図にかわります!!

#### 株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555 FAX 03-3467-6568

- \* ミュージアム・ ショップグッズ の企画・製作・ 販売(マグカッ プ、T シャツetc.)
- \* 特設売店の代行

〒151 渋谷区富ヶ谷1-17-9 パークハイム302

## 美術

## はく製

〈各 種 生 物〉 剝製・骨格標本・レプリカ 加工/販売/リース



### 關 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通☎0473-37-5678 ☎0473-37-5883

FAX 0473-38-1978 \$\infty\$0473-74-1564

本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25



- (2)「マルチメディア政策企画室」の設置(平成6年6月) (3)NII構想に取組んでいるアメリカの現状についての 実務的な現地調査(平成6年6月)
- (4) その他、分野ごとの取組みの推進 さらに、具体的に取組むべき検討事項として以下のよう な内容を挙げています。
  - ①実体験が困難な学習分野等におけるバーチャルリアリティの活用
  - ②マルチメディアを生かした芸術作品の制作や展示
  - ③貴重な学術資料・標本の画像表示と遠隔利用
  - ④各分野の施設間の高度情報ネットワークの整備(データベースの相互利用など)
  - ⑤各種文教施設の情報集積・提供機能の強化
  - ⑥各分野におけるマルチメディア・ソフトの研究・開発の促進(教育・学習用ソフトの開発、芸術作品・文化財関係資料の映像ソフト化など)
  - ⑦社会教育指導者、マルチメディア・ソフト・クリエイ ター、ハード技術者の養成等
  - ⑧著作権に関する権利処理ルールの確立及び権利の集中 管理体制の整備 など

#### 米国科学系博物館視察研修のお知らせ

全科協主催「米国科学系博物館視察研修」の実施についてお知らせします。

■主 催:全国科学博物館協議会

■期 間:平成7年1月12日(木)~1月25日(水)

■対 象:全科協 正会員・維持会員・購読会員

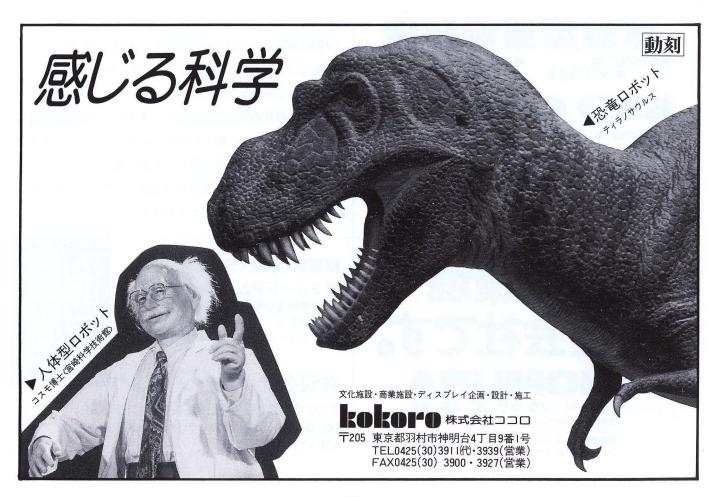
■参加費用: 268,000円 (15名以上)

ただし正会員には、予算の範囲内で1人あたり50,000円以内の研修援助費を支給する予定

■主な訪問先:

国立自然史博物館(ワシントン) ボルチモア産業博物館(ボルチモア) アメリカ自然史博物館(ニューヨーク) リバティー科学館(ニュージャージー) ボストン子供博物館(ボストン) ニューイングランド科学館(ウォーセスター)

- ■申込方法:指定の参加申込書(各会員あて別送)による
- ■申込締切:平成6年10月25日(火) 日程等の詳細は別送の御案内を御覧ください。



Vol. 24, No. 5

## 博物館職員現職研修 (ミュージアム・マネージメント研修) のお知らせ

全科協・国立科学博物館主催「博物館職員現職研修(ミュージアム・マネージメント研修)」の開催についてお知らせします。

■主 催:全国科学博物館協議会·国立科学博物館

■後 援:文部省(予定) ■協 力:東京大学教育学部

■期 間:平成6年12月6日(火)~12月10日(土)

■対 象:科学系博物館に勤務する管理部門職員

(館長、副館長、課長等)

■募集人員:50人

■会場:(1)主会場

国立科学博物館

(2) 現地研修会場 東京大学

(3)選択研修会場 ①西友②茨城県自然博物館

■主要研修事項等:

博物館経営概論

「新しい科学の創造と教育の革新」

博物館経営論

「博物館の経営」

博物館経営組織論

1「博物館経営者の役割」

2「博物館における人材育成」

#### 博物館経営戦略論

- 1「博物館の経営と集客戦略」
- 2 「時代の流れを先取りした経営戦略」

#### 博物館経営計画論

- 1 「これからの博物館におけるハイテクを用いた展示 技術の可能性」
- 2 「展示更新の理念と実践」

#### (以下選択研修)

- 3「企業のソフト化経営戦略」
- 4「現代的課題に対応した新しい参加体験型博物館」

#### ■主な講師:

慶応義塾大学教授

石井威望氏

東京大学工学部教授

原島 博氏

UCCコーヒー博物館長

諸岡 博熊氏 ほか

■受講手続き:受講申込者調書及び推薦書(各館あて別送) を全科協理事長あて送付

■締切り:10月10日(月)

■参加費:5,000円 その他旅費、食事等は受講者の負担

詳細は、別送の実施要項を御覧ください。

## 体験型展示装置

●科学実験装置 ●体感映像装置 ●パソコンQ&A ●ロボット

●水の遊具

#### 企画·設計

製作

(改造・修理

迅速な対応/新しいアイディア・豊富な設計ストックがあります。

——科学系文化施設専門18年——

株式会社メガ・システム開発 〒153 東京都日黒区日黒1-2-23-10 TEL.03-3493-8864 FAX.03-3493-1870

#### 編集後記

今回の編集は、NHK放送博物館が担当しました。 特集では、"行動する博物館"の施策に何かお役に立てば

と考え、自己反省を含めて紹介させていただきました。 来年はNHKの放送開始70周年、さ来年には放送博物館の

故事にいう"新しい酒を新しい皮袋に盛る"のたとえもあり、21世紀にむけて変革と新たな遺産づくりに、いま一度、 足元を見つめなおそうと考えています。

開館40周年と、いま、新しい胎動が始まろうとしています。

# 感動環境 創造会社です。 BNOMURA

株式会社 **75 木寸 工 藝 元士** 本社:東京都港区芝浦4-6-4·電話03-3455-1171代 〒108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

- 翻訳・編集・デザイン
- ミュージアムメディア開発 博物館展示解説作成 海外ミュージアムの現地調査、 アンケート調査、資料調査及び翻訳

# 海 HYFONG L

## 有限会社ハイフォン

〒150 東京都渋谷区鴬谷町19 -19 ソフィアハウス203 Tel:03-3496-8212 Fax:03-3496-2146 NiftyID:GGH00311